

香川県産業成長戦略（案）（概要）

戦略策定の趣旨

我が国が、かつて経験したことのない困難な局面にある中、将来にわたって本県経済の持続的発展を図るための戦略的な産業振興の指針として策定。

目指すべき経済社会

経済環境の変化に強い産業構造を生かしながら、新たな経済成長の原動力を創出し、「力強く着実に成長していく経済社会」を目指す。

対象とする期間

平成25年度から平成34年度まで

戦略方針

- 1 人口減少・少子高齢社会がもたらす社会構造の変化などのマイナスの影響を最小化し、プラスに変えていく。
- 2 本県の産業や地域の強みを最大限生かすとともに、産学官や異業種などの多様な連携の促進を図る。
- 3 アジアを中心とした海外の活力を積極的に取り込む。

戦略の成果目標

◇ 今後10年間で人口の社会増減をプラスに回復させる
（平成15年～平成24年（年平均）の社会増減▲890人）

◇ 今後10年間の平均名目経済成長率を全国平均より高い水準にする
（平成12年度～平成21年度（年平均）県▲0.5%、全国▲0.6%）

◇ 今後10年間で付加価値率（製造業）を全国平均より高い水準にする
（平成23年 県27.8%、全国32.1%）
※付加価値率＝付加価値額÷製造品出荷額等

◇ 今後10年間で海外展開企業数（貿易取引・海外進出・提携企業数の延べ数）を平成24年から10%増加させる
（平成24年381社→平成34年420社）

分野別戦略

地域の強みを生かした、新たな活力と付加価値を生み出す成長産業を育成し、集積を図る。

I 成長のエンジンとなる分野

(1) 地域資源や伝統技術を活用した 特長ある食品・バイオ関連分野

- ◎希少糖クラスターの形成
- ◎オリーブブランド力の強化
- 地域資源・伝統技術を活用した食品づくり
- 冷凍調理食品産業の強化

(3) 先端技術や基盤技術を活用した ものづくり分野

- ◎炭素繊維複合材料関連産業の育成
- 知的ロボット等関連産業の育成
- 先端技術を活用した新製品開発促進

(5) 高品質な農産物づくり分野

- ◎成長化品目の生産拡大の加速化と担い手を中心とした産地構造の構築
- ◎全国をリードし続けるオリーブの振興
- ◎新たな6次産業化ビジネスの展開
- 県オリジナル品種や松盆栽の世界への発信

(2) 健康関連分野

- ◎K-MIX事業の新たな展開と県内医療・福祉関連ICT産業の育成
- 医療・福祉現場とのネットワークを生かした健康関連製品の開発支援

(4) エネルギー・環境関連分野

- ◎再生可能エネルギー等関連産業の育成
- バイオマスやリサイクル関連の技術開発支援

(6) 観光関連分野

- ◎アート・文化資源の活用
- ◎瀬戸内海の活用
- ◎老舗観光地の活性化
- 新たな観光資源を活用した交流促進
- 食資源の活用
- 情報発信・受入態勢の充実
- 東アジアなどからのインバウンド対策

II 重点プロジェクト

(1) 「かがわ希少糖ホワイトバレー」 プロジェクト

- ・「知の拠点」の形成
- ・「希少糖産業」の創出
- ・「香川の希少糖」ブランドの確立

(2) オリーブ産業強化プロジェクト

- ・生産振興
- ・新商品開発、品質向上
- ・ブランド化(情報発信)・販売促進

(3) K-MIX関連産業育成プロジェクト

- ・「K-MIXビジネス創出コンソーシアム(仮称)」の創設
- ・「K-MIX」ブランドの確立
- ・県内医療・福祉関連ICT産業の育成

(4) ものづくり「温故知新」プロジェクト

- ・コア技術の強化
- ・戦略的マッチングの推進
- ・成長分野等への進出促進
- ・地域経済を牽引する企業の育成

(5) 世界に発信「アートの香川」 プロジェクト

- ・アート・文化資源の集積・充実
- ・地域イメージの定着化
- ・ターゲットを絞った誘客活動

横断的戦略 1

独自の強みを持つ企業の競争力強化を支援する。

- ◎ 県内企業の研究開発力の強化支援
- ◎ 県内企業の第二創業等の創出促進
- ◎ ベンチャー企業の創出促進
- 基盤技術の強化・生産性向上等
- マーケティング力の強化支援
- 資金面での支援
- 本県ゆかりの人的ネットワークの拡大

横断的戦略 2

海外市場に挑む企業の事業展開を支援する。

- ◎ 新たに海外展開に取り組む県内企業の支援
- ◎ 上海地域におけるビジネス支援体制の強化
- ◎ 海外展開を担う人材育成
- ◎ 県産品の海外販路開拓の推進
- 海外ミッションの派遣
- 支援機関ネットワークの連携強化

横断的戦略 3

産業の成長を支える人材を育成・確保する。

- ◎ 産業人材の育成
- ◎ 県内企業の人材確保の支援
- ◎ 女性の職業能力の発揮促進
- 高齢者の就業促進
- 技術・技能の伝承

横断的戦略 4

企業立地や企業活動を支えるための産業基盤の強化を図る。

- ◎ 戦略的企業誘致施策の強化
- 広域交通ネットワークの充実・強化
- 県内企業支援のための地域プラットフォームの強化

《重点プロジェクト(1)》

「かがわ希少糖ホワイトバレー」プロジェクト

趣旨：香川で生まれた世界に誇れる財産である希少糖について、これまで進めてきた産学官連携による成果を生かして研究開発から生産、販売に至るまで総合的に推進することにより、「希少糖クラスター」を形成するとともに、世界に通じる「香川の希少糖」ブランドを確立し、本県における希少糖産業を「希少糖といえば香川、香川といえば希少糖」と呼ばれる一大産業へ成長させる。

★プロジェクト目標(10年後)

- 世界的に求心力のある希少糖の「知の拠点（＝研究開発拠点）」の形成
- 産学官一体となった「希少糖産業」の創出
- 世界に通じる「香川の希少糖」ブランドの確立



「かがわ希少糖ホワイトバレー」の形成

「知の拠点」の形成

①大学等の研究体制の強化
県と大学、企業が連携して研究開発を促進。

- 【研究テーマ例】
- ・ D-ブシコースの第2、第3の特定保健用食品の開発
 - ・ D-ブシコースに次ぐD-アロース、D-アルトロース、L-ブシコース、D-タガトースやデオキシ希少糖など新たな希少糖の研究開発

②「国際希少糖学会」での研究成果の発信

国内外の研究者との連携を強化し、希少糖研究成果を香川から発信。

D-ブシコース

- ・ トクホ申請
- ・ 機能性食品

D-アロース

- ・ 臓器・組織保存液
- ・ 抗がん作用 など

D-アルトロース、D-グロース、D-タガトースやデオキシ希少糖などの新たな希少糖

・ 医薬品、食品・植物成長調整剤・人にやさしい農業 など

「希少糖産業」の創出

①希少糖の生産企業や民間研究所の誘致・育成

- ・ 希少糖の生産や試験研究を行う企業の施設・設備の整備に対し、企業誘致助成制度を活用した支援
- ・ D-ブシコースの県内での大量生産を促進。

②研究成果を活用した新商品開発支援

- ・ 県内企業によるD-ブシコースや希少糖含有シロップなどを使用した新商品開発を支援。
- ・ 食品以外にも毒性のない農業など、早い段階での事業化が期待される分野における新商品開発の取組みを促進。
- ・ 香川大学等の糖質バイオ分野の研究成果を事業化する県内企業に対する支援を強化。

③産学官連携によるネットワーク等の形成

- ・ 「希少糖戦略会議」
- ・ 「かがわ糖質バイオフォーラム」

「香川の希少糖」ブランドの確立

①希少糖フェアの開催

「希少糖といえば香川、香川といえば希少糖」を印象付ける「かがわ希少糖フェア(仮称)」などのイベントを県内で開催。

②情報発信者向けプロモーション

国際見本市等への出展や、都市部などでのPRを通じて、マスメディア、バイヤー、プロガーなどに対するプロモーションを実施。

③消費者向けプロモーション

県内や都市部の百貨店等での希少糖商品の販売、県アンテナショップでの販売コーナーの設置などを通じて、県内外の消費者に対する効果的なプロモーションを実施。

希少糖含有シロップ

希少糖含有シロップを活用した商品



《重点プロジェクト(2)》

オリーブ産業強化プロジェクト

趣旨:オリーブの生産振興、多角的な新商品開発や商品の品質向上、ブランド力の強化を総合的に推進し、全国トップにある本県のオリーブ産業の地位を確たるものとする。

★プロジェクトの目標(10年後)

- 全国トップの生産量を持続できる生産体制の確立
- 品質、品目数とも全国をリードする香川発のオリーブ商品群の創出
- 小豆島を中心としたオリーブブランドの確立



生産振興

①オリーブ

- 全国トップの産地であり続けるための生産拡大
- ・ 作付拡大に対する支援
- ・ 病害虫防除対策



- 全国の先を行く高品質で安定的な生産技術の開発・普及

- ・ 県オリジナル品種の育成
- ・ 栽培技術の高位平準化

②オリーブ牛

- ・ 讃岐牛の「全頭オリーブ牛化」を目標。



③オリーブハマチ

- ・ オリーブハマチの出荷尾数を30万尾以上に拡大。



新商品開発・品質向上

①新商品の開発促進

- 商品化につながる新たなシーズづくり
- ・ 県産業技術センター発酵食品研究所において新商品開発につながるシーズを創出。
- ・ 未利用資源を活用して、新用途の創出や、付加価値向上につながるシーズを創出。
- ・ 創出された新たなシーズに対する知的財産戦略を推進。



○商品化支援

- ・ 品質、品目数とも全国をリードする商品群を創出。
- ・ 迅速な商品化を促進。
- ・ 企業ニーズを踏まえた新商品開発を積極的に支援。



②6次産業化の促進

- ・ 食品産業などの民間資金や優れた食品加工技術などのノウハウを活用した、新しい6次産業化を促進。

③オリーブオイルの高品質化

- ・ 県独自のオリーブオイルの品質基準の設定などを行う。
- ・ 県内採油業者の採油技術の向上。

ブランド化(情報発信)・販売促進

①オリーブブランドの確立

- ・ 生産者や事業者、関係自治体、関係団体等が連携してブランド力向上の取組みを実施。
- ・ 香川がオリーブに関する情報の発信拠点となるよう、産地や新商品に関する新しい情報を官民あげて積極的に発信。
- ・ 栗林公園「かがわ物産館」や東京「せとうち旬彩館」を最大限活用し、商品の情報発信やテストマーケティングを実施。

②戦略的な販売活動の推進

- ・ 品質に見合った価格での継続的な販売取引を実現するため、中間物流企業や百貨店等と強い関係を構築するとともに、販売力やブランドイメージを持った企業と一体となった販売促進活動を展開。
- ・ 県内での販路定着や、関西圏・首都圏などでの販路拡大やPRを通じて全国ブランドとしての展開を目指す。
- ・ オリーブ牛、オリーブハマチをアジア諸国など海外市場へ展開。

「小豆島オリーブトップワンプロジェクト」との連携

- 官民一体となった栽培技術の研究やブランド力の向上、品質向上に係る技術開発、人材育成 等

《重点プロジェクト(3)》

K-MIX関連産業育成プロジェクト

趣旨:産学官連携の下、全国に先駆けて取り組んだ全国初の全県的な医療情報ネットワークである「かがわ遠隔医療ネットワーク(K-MIX)」をフル活用し、他に例を見ない「K-MIX」ブランドの確立と、K-MIXの取組みを生かした県内医療・福祉関連分野でのICT産業の振興を図る。

★プロジェクトの目標(10年後)

- K-MIXの一層の機能拡充を図り、官民あげて、世界に通じる「K-MIX」ブランドを確立
- K-MIXの取組みを生かした県内医療・福祉関連ICT企業の育成を図り、「医療・福祉ICT立県」を推進

K-MIXブランドの確立

①新たな機能の拡充

これまで構築されてきた遠隔診断などの既存機能に加え、近年、県民ニーズが高まっている疾病予防、健康増進やPHR(個人の健康記録)、医療と介護との連携など、新たな視点に立った機能拡充を推進。



②海外に向けた展開

医療資源に乏しく、遠隔医療の必要性が高いと見込まれるアジア地域などに、遠隔医療に関する運営ノウハウを含め、K-MIXの海外展開を推進。

③あらゆる機会を捉えた情報発信

K-MIXの取組みを「国際遠隔医療学会」等の学会や展示会等で国内外に積極的に情報発信し、新たな連携やネットワークを充実・拡大。

K-MIXビジネス創出 コンソーシアム(仮称)

「産学官連携による振興体制」
(香川大学、香川県医師会、県内ICT事業者、NPO、行政等)

- K-MIXの機能強化方策
- 海外展開方策
- K-MIXを生かした新たなビジネス等の検討



県内医療・福祉関連ICT産業の育成

①県内ICT事業者の参画促進

県内ICT事業者の参画を促進して、K-MIX及びその関連事業における医療・福祉分野などの新たな機能の開発を行い、県内医療・福祉関連ICT産業を育成。

②総合特区等との連携

県においてK-MIXを生かした安心な街づくりに取り組む「かがわ医療福祉総合特区」の拡充や、国レベルで進める研究事業への参加などにより、県内ICT事業者がK-MIX関連事業に参画する機会を拡大。

③ICT関連製品等の開発促進

産学官連携の人的ネットワークを生かし、K-MIX関連事業の中から生まれる新たな技術シーズの創出や現場のニーズを反映したICT関連製品等の開発を促進。

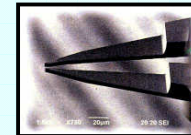
《重点プロジェクト(4)》

ものづくり「温故知新」プロジェクト

趣旨: 個々の県内企業に蓄積されたものづくり基盤技術や特徴ある技術など強みとなるコア技術をさらに磨き(温故)、産学官連携や異業種連携などの多様な連携の下、大学等に蓄積された先端技術の移転、最新技術や市場の動向に関する的確な情報提供などの戦略的なマッチングにより(知新)、「他ではつくりえないものをいち早く生み出す競争」に打ち勝つ企業を育成するとともに、成長分野への進出を支援する。

★プロジェクト目標(10年後)

- 成長分野で活躍する県内企業の増加
- 自社ブランド製品を持つ県内企業の増加
- 地域経済の成長の原動力となる県内企業の育成



コア技術の強化

県内企業がこれまで蓄積し、強みとする切削技術、溶接技術などのものづくり基盤技術の一層の強化を図り、成長分野等への進出の足元をより強固なものとする。

①県産業技術センターによる研究開発、技術指導の強化

・様々な研究開発を実施するとともに、企業訪問による研究成果の普及や技術指導を強化。

◇「精密切削加工技術」「高品質溶接技術」など

②技術力強化のための勉強会や講習会の充実

・先進企業の実務担当者等を講師とする勉強会や実技を伴う講習会などを充実。

③専門家による巡回指導の実施

・県内外の高度な知識や経験を有する専門家を企業に派遣し、技術のブラッシュアップを実施。

温故

+

知新

戦略的マッチングの推進

技術、情報、取引などの戦略的なマッチングを推進し、県内企業の成長分野への進出等を促進。

①多様な連携の促進

・大学、高等専門学校、(独法)産業技術総合研究所四国センターなど、先端技術を有する機関との県内企業のニーズに合った連携を促進。
 ・地域のフォーラム活動を最大限に活用して「産学官連携」を促進。
 ◇「かがわ健康関連製品開発フォーラム」、「微細構造デバイス研究開発フォーラム」など

・「地域の異業種企業間マッチング」や「成長分野等における大手企業とのマッチング」を戦略的に実施。

②先端技術の移転促進

・大学、高等専門学校、試験研究機関等に蓄積された先端技術の企業への円滑な移転を促進。
 ・成長分野への進出などに必要かつ重要で、県内に蓄積の乏しい技術について、県産業技術センターにおいて研究開発に取り組み、進出可能な県内企業に技術を移転。

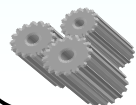
◇「炭素繊維複合材料の成形及び加工技術」「高機能表面処理技術」「レーザー加工技術」など

③最新技術や市場の動向に関する情報提供

・「かがわ次世代ものづくり研究会」や産学官によるフォーラム活動などを通じた最新技術や市場の動向に関する情報提供。

地域経済を牽引する企業の育成

- ・第二創業や事業多角化を目指す企業、ニッチトップ企業(候補企業)、開発志向型企业、高い成長が期待されるベンチャー企業などを中心に、独自の強みを持ち、本県の経済成長の原動力となる地域経済を牽引する企業を育成。
- ・現に地域経済を牽引する大手企業等の企業活動に係る課題解決のサポート等を実施。



成長分野等への進出促進



エネルギー・環境関連分野



ロボット関連分野



自動車関連分野

等

《重点プロジェクト(5)》

世界に発信「アート・香川」プロジェクト

趣旨：本県において「アート県」ブランドを確立するため、アート・文化資源の充実と、積極的な情報発信による「アート県」としての地域イメージの定着化、そして、具体的な誘客に繋げるためのターゲットを絞った誘客活動を行い、観光産業の活性化を図る。

★プロジェクトの目標(10年後)

- アート・文化資源の集積・充実による「アート県」の創造
- 「アート県」としての地域イメージの定着化
- ターゲットを絞った誘客活動による観光産業の活性化



アート・文化資源の集積・充実

① 瀬戸内国際芸術祭の開催によるアート資源の充実

- ・瀬戸内海の島々での現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭」を継続的に開催。
- ・恒久設置作品の蓄積によるアート資源を充実。

＜作品例＞ ANDO MUSEUM、島キッチン など

② 田園美術館を形成する建築群、パブリックアートの充実

- ・屋島周辺、沙弥島周辺を重点地域として、アート資源を集積。
- ＜屋島周辺のアート資源＞ イサム・ノグチ庭園美術館、ジョージ・ナカシマ記念館、四国村ギャラリー、むれ源平石あかりロードなど
- ＜沙弥島周辺のアート資源＞ 香川県立東山魁夷せとうち美術館、瀬戸大橋記念館、どだま獅子、鬼屏風、沙弥島西の浜の家など
- ・世界的に著名な作家の作品とともに、各種コンクールの入賞作品等をパブリックアートとして展開。
- ＜パブリックアート＞ 「TIME AND SPACE」、「和敬静寂」、「だいてんまい」、「またきまい」など



③ アート作品の制作拠点の整備

- ・芸術系大学等と連携し、空き施設等を利用して創作活動を支援するなど、若手作家等の制作拠点を整備。

④ 映像文化の発信活動の活発化

- ・さめき映画祭やフィルムコミッションなどを積極的に展開。

⑤ 音楽文化の振興

- ・高松国際ピアノコンクールなどの推進や県内のオーケストラ等の振興、県外交響楽団等との交流を促進。

⑥ 既存の伝統的なアート・文化資源の掘り起こし

- ・寺社や個人が所蔵する資源の特別展等を推進。
- ＜既存資源＞ 金刀比羅宮書院や宝物館の美術品(円山応挙、伊藤若冲、高橋由一など)、四国八十八箇所寺等が所蔵する国宝、重文など
- ・歌舞伎まつりの開催など伝統芸能の発表機会を創出。
- ＜既存資源＞ 旧金毘羅大芝居、中山農村歌舞伎、肥土山農村歌舞伎、農村歌舞伎祇園座など

地域イメージの定着化

① 映像、メディアによる認知度の向上

- ・映像による「香川県＝アート県」のイメージ戦略を展開。
- ・交通広告の活用、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌などでのPR、インターネット、ソーシャルネットワーキングシステムを活用した情報発信。

② 芸術関係者間でのアート県としての地位の確立

- ・専門雑誌によるアート関係者や一度は訪れるべき場所としての芸術系大学等へ情報発信。

ターゲットを絞った誘客活動

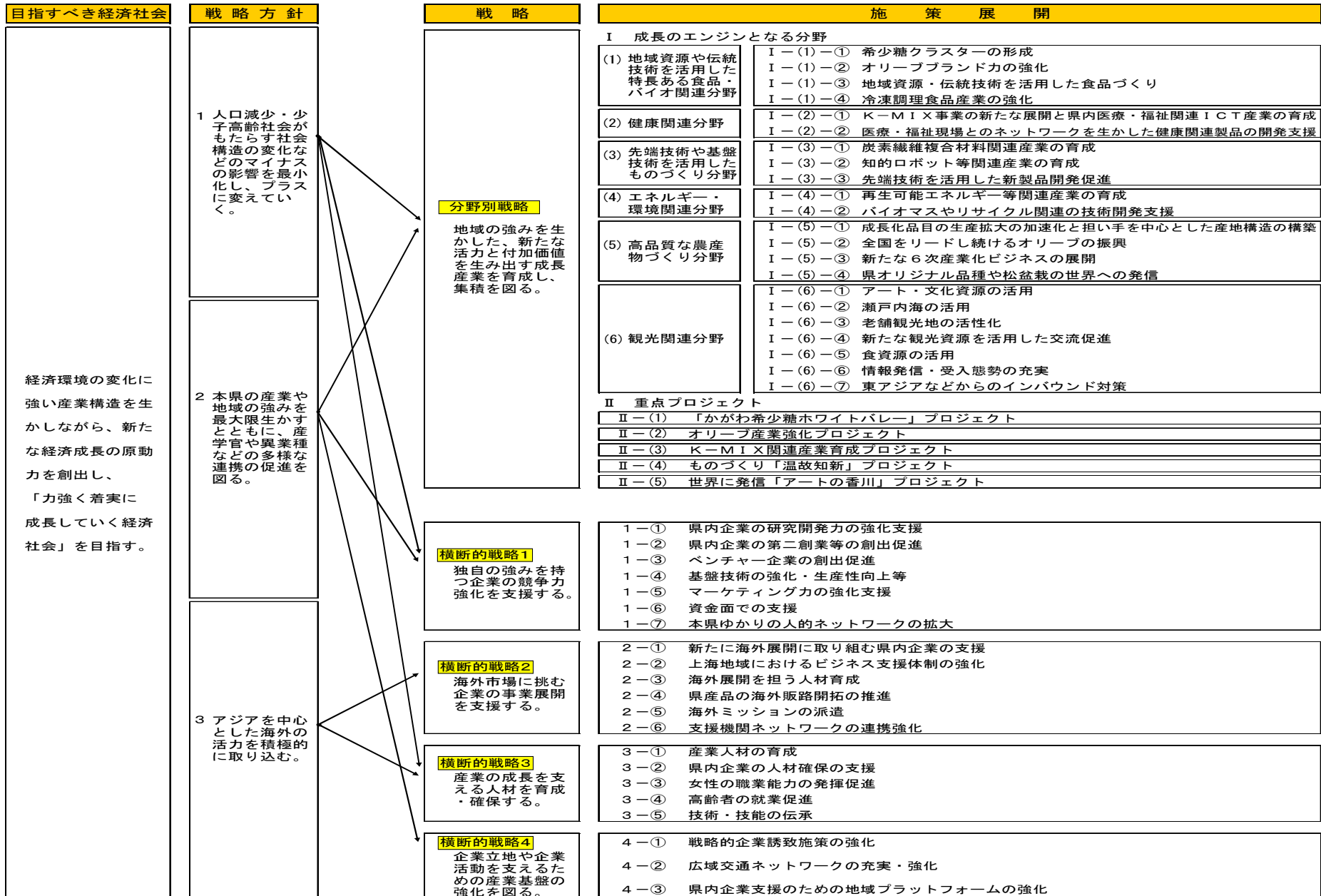
① 個人や小グループに向けたインターネットによる情報発信の強化

- ・インターネットによるアートツアーのモデルルートを紹介。
- ・芸術系大学等での誘客活動を展開。
- ・女性向け雑誌等での魅力を紹介。

② 海外の旅行エージェントの招聘による個人向け商品の造成の働きかけ

- ・瀬戸内国際芸術祭の情報発信力を活用した「アートの香川」をPR。
- ・富裕層をターゲットにした旅行エージェントへの働きかけ。
- ・外国船社へのクルーズ企画を積極的に提案。

<施策体系>



※戦略方針を実現するための戦略として、両者の主な対応関係を矢印で表示